

2015年（平成27年） 8月 703号

国際ミサ

アダム・クジャク

先月、戸部教会でポーランド語＋日本語のミサをあげました。準備をするにあたり、ポーランド語で「ミサと堅信式」の式次第を作るのに苦勞しました。ミサの基本はポーランド語ですが、聖歌はポーランド語、日本語、英語、スペイン語で歌いました。初めての歌もありましたが、皆メロディーを聞いて、すぐ一緒に歌う事が出来ました。そしてテゼの「ウビ・カリタス」「神の国と神の義を」や「主は水辺に立った」等、聞いたことのある曲はどの言語でもきれいな歌声となりました。「主は水辺に立った」はヨハネパウロⅡ世のミサや祈りの会でもよく唄われている曲でした。慣れないポーランドの曲をきれいにオルガンで弾いてくれた手束さんに感謝します。ポーランドから来た方の中に2人の司祭、一人はプラハでドミニコ会の修道院院長をしているヒエロニモ神父と、もう一人はクラクフのジビシュ枢機卿（ヨハネパウロ2世が着任されていた時に、バチカンの仕事を側近で働いていた方）の所で現在事務局長をしているトマス神父が来ました。他は子どもたちの親戚にあたる人たちでした。彼らがポーランドから親戚が来日する際に、是非一緒に秘跡に参加したいとの要望があるとされましたので、私は梅村司教様をお願いして堅信の秘跡を授ける権能を頂きました。ミサの中で二人の青年が堅信を受け、一人の女の子が初聖体を受けました。マリノ神父様も加わり4人で司式をしました。はじめて日本語のミサにあずかる人、ポーランド語ミサにはじめて参加する人、それぞれが一体となり主の食卓を囲み、秘跡の恵みにあずかれることのミサでした。

昔はラテン語のミサで、どこの国に行っても、どの国の司祭でも言葉の心配をせずにミサをあげることが出来ました。今はそれぞれの国の言語でミサをたてるようになり、宣教師は言葉で苦勞します。しかしやはりミサはイエス・キリストのもとに心と心が通じ合い、世界中が結ばれているのです。

終わってから集会室のパーティーは小茄子川さんの心温まる食事で、日本的なそして食べやすいものでした。婦人部長の橋爪さんと久山さんのサービスに、ポーランドからのお客様たちは感心していました。遅くまで働いて下さってありがとうございました。

コーヒータイムには「森へ行きましょう」ポーランド人の作曲の歌を合唱し、ロシア人の方、トマス神父、マリノ神父がギターを披露し、最後にはスペイン出身のミゲルさんのパフォーマンス＝ジャグリング（曲芸）に子どもも、大人も喜びの興奮の中で終わりました。日本の教会は8月6日から15日まで世界平

f

和のために祈っていますのでこのように世界中が一つになるように心から一緒に祈ったらいいと思います。

